

# 県外派遣審判員報告書

作成日 H29年 6月 27日

大会名	全九州高等学校バスケットボール大会	会場	九電記念体育館, 福岡市民体育館
期間	H29.6.23(金)~6.25(日)	報告者	隈元 ゆみこ

## スケジュール

期日	内容	場所
6月23日(金)	18:00~ フィットネステスト	福岡市民体育館
6月24日(土)	8:15~ 審判会議	九電記念体育館
	17:00~ 女子準々決勝担当 精華女子(福岡) 対 那覇(沖縄)	
6月25日(日)	9:00~ 女子準決勝担当 福大若葉(福岡) 対 熊本国府(熊本)	福岡市民体育館

## レクチャー・審判会議の内容

### <審判会議内容>

- ・前日に行われた代表者会議における伝達事項について  
 コーチ, プレイヤー, チーム全員の協力について
- ・4方面(プレイヤー・指導者・観衆・審判)からの協力について
- ・チームファウル表示について 九電記念体育館は, 5つ目のランプが点灯しないため, 赤い筒をテーブルに立てる。

実技	割り当て	女子準々決勝 精華女子 対 那覇	(主)副	相手	佐田(大分)A級
----	------	------------------	------	----	----------

### ○ゲーム前(プレカンファレンス)

ガイドラインにそった判定をゲームの早い段階で示すこと。スクリーンプレーについて, 1回戦をみていて気になるプレイがあったので, スクリーンのかけ方等についてしっかり目を当てておくこと。2人の協力について, まずは, お互いのプライマリーをしっかりと判定すること, セカンダリーとしての協力の仕方等について話をした。また, 両チームともにオフェンス能力があるので, 下手にリードが右に渡ってしまうと振られてしまうケースもあるだろうから, クローズダウンから右へ渡る際の判断と, 早く戻ると意識しつつ, 場合によっては, トレールの協力が必要であるという話をした。

### ○ゲームの実際

1Qから2人でガイドラインにそった判定をそれぞれのプライマリーで示すことができ, 比較的クリーンにプレイをしてくれたように感じた。スクリーンについても, イリーガルなものをしっかりとらえることができたので, 事前の打ち合わせを活かすことができた。後半, 自分がトレールの定位置に戻る際に, 動きながら捉えるような形になってしまい, 1Qで判定していたイリーガルスクリーンについて, しっかりと確認がとれず, ノーコールにしてしまったケースについては, 反省が残る。リードが判定できなかったケースで, セカンダリーとしてトレールから吹き込むような形になってしまい, そういった部分では, 主審として, もっとコミュニケーションをはかり, お互いのポジションの修正ができればよかったと思う。

### ○ゲーム後(ポストカンファレンス) 主任 伊藤 彰二(福岡県) A級

前半は, 2人でしっかりとガイドラインにそった判定をしており, プレイヤーにもそれが伝わっていた。2Q後半あたりから, パートナーのリードの位置が入り込んでしまう傾向にあり, 結果, 3Qにトレールからセカンダリーとして吹き込まざるを得ないようなケースが出てきてしまった。その際に, 相手のポジショニングのまずさに気づいていたのであれば, 主審として, しっかりとコミュニケーションを図り, 二人で修正すべきだったのではないかと。

実技	割り当て	女子 準決勝 福大若葉 対 熊本国府	U1	相手	R:川島(宮崎)A U2:山口(長崎)B
----	------	--------------------	----	----	----------------------

### ○ゲーム前(プレカンファレンス)

3POメカニクスについての確認。(ボールサイドツー, ローテーションの際の動き)ショットクロック, タイマー等の確認をしっかり行うということ。インサイドに対する守り方, 足元の確認。ガイドラインにそった判定をゲームの早い段階で行おうという話をした。

### ○ゲームの実際

3人で協力してゲームを進めることができたように思う。判定に関しては, リバウンド争いやトラベリングに関してももう少ししっかり判定すべきであった。また, クルーの誰かが判定してくれているおかげで助かった部分があったが, 本来は, 自分がしっかりと判定すべきであったケースがいくつかあった。ベンチへの対応については, ワーニングにはいかなかったが, 警告を与えないにしても何かしらの対応が必要だったように思う。あとは, その際の表情についても気をつけなければならないと痛感した。

### ○ゲーム後(ポストカンファレンス) 主任 佐藤 安里紗 氏(長崎県) A級

判定したものに特には特にないが, 果たして誰が吹いたほうがよかったのか, 誰がレポートにいったほうが良かったのかという点で, 客観的に外からみている, 本当にその位置, そのポジションの人が見えているのか?という疑問があった。また, 若葉のコーチのアピール等に対して何かしらの対応, 警告が必要だったのではないかと。

### ○福岡九州ブロック長より

誰が判定したほうが説得力があるのか。また, 吹くタイミングや吹き方, 見せ方の工夫が必要。勝敗を決めるプレイで, 絶対にこぼしてはいけないものをこぼしてしまっている。リードかトレールがしっかりと判定しなければならないケースであった。ベンチへの対応についても, 警告を与えずとも何かしらの対応ができたのではないかと。

## 全体を通しての感想

初日, 2POでのゲームに関して, 悪い手・肘・腕の使い方, イリーガルスクリーンについて, 1ゲームを通して今の自分の判定を示すことができたと感じました。しかし, 主審としてゲームを任せられた際のパートナーとのコミュニケーションの取り方, 伝え方などまだまだ不十分なので, 今後改善を図っていきたい。3POに関しては, あらためて動画を確認すると, うまくいっていないローテーションやスイッチミスなどが見受けられたので, しっかりとマニュアルを理解し実践につなげていかなければならないと感じました。判定についても, 誰が判定したほうがいいのか, レポートにいくべき人は誰なのか, より説得力のある位置にいる人がきちんとすべきであると感じました。勝敗を左右する大事なプレイに関しての判定について, 今回は何名からか同じようなアドバイスをいただきました。そういったプレイへの判定に関しては, しっかりと根拠, そして勇気をもって決断すべきことだと感じました。ベンチへの対応については, これまでも自分自身の課題の1つであるので, 今回のことも含め, 自分の引き出しを増やしていけるよう, これからのゲームの中で研鑽を重ねていきたいと思います。

最後に大変お世話になった福岡県審判委員会の皆様, 今回の派遣に御配慮いただきました原田審判長をはじめ鹿児島県審判委員会の皆様に御礼を申し上げます。ありがとうございました。